

赤木さんの自慢のほうき



5 フランスで見つけた柄の赤いほうき

パリのマルシェの近くにあった日用品店で発見。「石畳を掃けるようにつくられているので、穂先がとても丈夫。わが家では、テラスの落ち葉掃きにぴったりの堅さ」

10 ドイツで購入したミニサイズのほうき

旅先のドイツで、赤いホウロウのちりとりとセットで購入したほうき。ふだんは子ども部屋の壁にかけられていて、ストーブまわりやオルガンの下などを掃除するときに活用。

4 「白木屋伝兵衛」の苔専用の「苔箒」

苔専用の庭ぼうき。「冷蔵庫と壁の間など、狭い場所を掃いたり、すすはらいに使ったり、『苔箒』という名前もかわいいですよね。◎白木屋伝兵衛☎03-3563-1771

9 ベトナムで見つけた手ぼうき

7と同じく、ベトナム旅行で見つけた手ぼうき。毛足がフサフサと柔らかな植物で編まれている。「こちらも10本以上購入して、友人たちへのお土産にしました(笑)」

3 岩谷雪子さんの和ぼうき

岩谷さんは植物を使った造形作家で、江戸和箒の仕事も勉強したこともある方。こちらは、「生活道具店」で紹介したこともあるお気に入り。「まるで美術品のような美しさ」

8 栃木の職人による手づくり和ぼうき

天然のほうき草を編んでつくった和ぼうき。「ひもが黒一色というところが、シンプルで格好いい」。◎アナログライフ <http://www.analoguelfe.com/>

2 ケンタッキー州の大学生による手づくりぼうき

アメリカのベリアカレッジという大学のクラフト部が制作したほうき。「家の中はどうしてもナチュラルな色味のものが多いので、インテリアのアクセントにもしています」

7 旅先で見つけたベトナムのほうき

現地で使われている様子が素敵で、街をさんざん探して見つけ、10本まとめて買って来たという思い出があるほうき。ピンクのビニールひものアクセントがご愛きょう。

1 職人たちが愛用する輪島の「職人ぼうき」

数年前、輪島の荒物屋さんで発見した、作業台や機械などの木屑を掃く手ぼうき。素材は稲。毛足がたっぷりしていて、ごみを集めやすい。赤木家の工房でも大活躍中。

6 「白木屋伝兵衛」の小ぼうき

はりみ(紙製のちりとり)とセットで購入。堅くて腰のある草を使っているので、細かなごみもしっかりキャッチ。「机の上などをきれいにするときに」。◎白木屋伝兵衛

赤木智子さん
姿よし、機能よしの
自然素材のほうきたち



赤木智子さん、阿部絢子さん

パタパタ、サッサカ
私の掃除道具自慢

しっかり動く頼もしい道具なのに、その姿かたち自体も、なんだか格好いい。ひそかに愛好家が増えている、ほうきとブラシ。毎日の掃除が楽しくなるパートナーです。阿部絢子さんと赤木智子さんのおふたりに、そんな道具たちを見せていただきました。

撮影／村林千賀子(P.38~39)、柳原久子(P.40~43) スタyling／四分一亜紀(P.42~43)
取材・文／田中のり子(P.38~39)、野上郁子(オフィスhana)(P.40~43)

朝ごはんを食べたあと、掃き掃除をするのが日課。リビングに面したウッドデッキはそのまま外につながっているため、簡単なほごりはそのまま掃き出せるのでラクチン

「わが家は、通いの職人さんやお弟子さん、お客さんなど人の出入りが多いし、室内で犬も一緒に暮らしているの、放っておくと、あつという間にほごりがたまるんです。そんなとき、さつと気軽に取り出せるほうきが便利で」とはいうものの、家の中にあるほうきの数はいささか多すぎるのでは？ 実は智子さん、一部では有名な「ほうき好き」。趣味と実用を兼ねて、さまざまな場所に出合ったほうきたちが、家のあちこちで使われていました。ただし、智子さんが選ぶのは、自然素材を使ったもの、一本一本、手仕事でつくられているもの、変にデザインされていない素直な形であることが条件です。「掃除機のほうき吸引力も高くて、ごみもきれいに取れるとは思いますが、『ほうきで掃く』動作自体がとても楽しいんです(笑)」。常に家中をきれいにしなきゃ、と気負ってしまうと掃除は負担に思えてしまうけれど、道具を使うことが楽しくなれば、気分もいっしょに動かしただけで、なんだか心のなかまをすっきりさせてくれる。ほうきには、そんな効果もあるそうです。